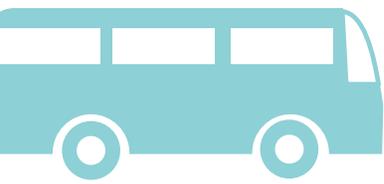




# 用語集



## 用語集

### あ

#### ●相乗りタクシー

配車アプリ等を通じて、目的地の近い旅客同士を運送開始前にマッチングし、タクシーに相乗りさせて運送するサービス(運送開始後に不特定の旅客が乗車できるバスとは異なるタクシー独自の運送形態となる)。(国土交通省 HP より)

#### ●ウォークابل

新たな時代のまちづくりの方向性におけるキーワードの一つ。「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し、まちなかを車中心からひと中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと改変していく考え方。

### か

#### ●カーシェアリング(カーシェア)

1 台の自動車を複数の会員が時間を変えて共同利用する自動車の新しい利用形態。当初は仲間同士等で行われていたものが、組織的に運営されるようになったもの。

#### ●外出率

パーソントリップ調査において、調査対象日の居住人口に対する外出した人の割合。

#### ●キャッシュレス決済

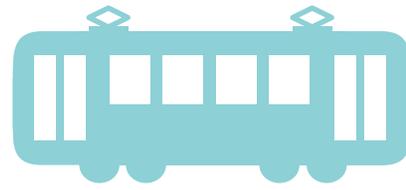
お札や小銭などの現金を使用せずにお金を払う手段。キャッシュレス決済手段には、クレジットカード、デビットカード、電子マネー(プリペイド)やスマートフォン決済など、様々な手段がある。

#### ●クーリングシェルター

熱中症による人の健康に係る被害の発生を防止するための施設。令和 5 年(2023 年)の改正気候変動適応法において、適当な冷房設備を有し、熱中症特別警戒情報が発表されたときは、当該施設を住民その他の者に開放することができる施設として、市町村長が定義した施設と定義されている。

#### ●KPI(重要業績評価指標:Key Performance Indicator)

目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標。



### ●公共交通モデル事業

山形市において、郊外地域における新たな公共交通の導入等による生活交通の確保に向けた実証事業のこと。タクシー等を活用した新たな公共交通の導入を試験的に行い、郊外における地域住民の移動手段の確保およびその導入プロセスを通じた全市的な公共交通導入に向けた知見を得るために実施した事業。

### ●「交通空白」

誰もがアクセスできる移動の足がない又は利用しづらいなど、地域交通に係るお困りごとを抱える地域のこと(必ずしも、地理的、空間的な「交通空白」に限らない)。「交通空白」の判断にあたっては、画一的指標による判断のみならず、地域の実情や利用者目線を踏まえた判断が求められる。(国土交通省「交通空白」解消本部「交通空白」解消に向けた取組方針 2025」より)

### ●交通系 IC カード

非接触型のカード型乗車券で、鉄道等において自動改札機へ挿入せずに改札を通過できるようにしたもの。事前にカードにチャージ(前払い)した金額から公共交通機関の乗降車の際に運賃を差し引く機能や定期券の機能などが搭載可能である。カードによっては路線バスやタクシーなど鉄道以外の交通機関の運賃支払や、商業施設等での決済にも利用できるようになっている。

### ●交通結節点

鉄道、高速バス、路線バス、コミュニティバス、タクシー、自転車などの移動手段が接続する場所。公共交通ネットワークにおける交通結節点は、各地域間の連携を強化し、中心市街地の活性化や市全体の活力と魅力を高めていくために、まちづくりの将来像や市民等の移動ニーズを踏まえ、市内適所に整備をする。さらに、接続する移動手段や利用者の属性を考慮し、円滑な乗り換えや快適な待合機能を備えることで、公共交通の優位性を高めていく。

### ●交通手段分担率(分担率)

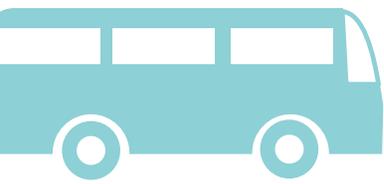
ある交通手段のトリップ数が全交通手段のトリップ数に占める割合を交通手段分担率という。移動距離を考慮しないため分担率の増加と交通量の増加は必ずしも同義ではない。

### ●交通需要マネジメント

自家用車の効率的利用や公共交通への利用転換など、交通行動の変化を促して、発生交通量の抑制や集中の平準化など、「交通需要の調整」を行うことにより、道路交通混雑を緩和していく取組をいう。(山形市交通安全計画より)

### ●高齢化率

人口に対する高齢者人口の割合を示したもの。「高齢者」の定義は一律には存在しないものの、ここでは内閣府高齢社会白書における算出法に倣い 65 歳以上の割合を高齢化率とする。



### ●こどもファスト・トラック

公共施設や商業施設などの受付において、妊婦やこども連れの方を優先する取組。待ち時間を短縮し施設を利用しやすくすることで、こどもや子育て中の方々にやさしい社会を目指す。(山形市こども計画より)

### ●コミュニティサイクル(シェアサイクル)

自転車を複数人で共同で利用するシステム。複数のサイクルポートが設置され、貸出・返却する場所が異なってもよい。山形市では、コミュニティサイクル「ベニちやり」が導入されている。

### ●コンパクトプラスネットワーク

人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要とし、国土交通省が重点的施策に掲げるもの。都市全体の構造を見渡しなが、住宅及び医療・福祉・商業その他の居住に関連する施設の誘導と、それと連携した地域公共交通ネットワークの再編を行うことにより、コンパクト+ネットワークの実現を図る。

## さ

### ●サイクルポート

コミュニティサイクルの車両の貸し出し・返却を行う場所のこと。

### ●GTFS-JP/GTFS-RT(標準的なバス情報フォーマット:General Transit Feed Specification)

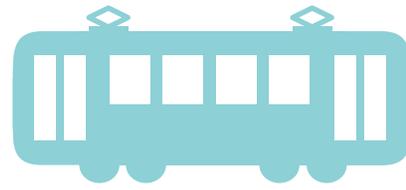
「標準的なバス情報フォーマット」とは、バス事業者と、経路検索等の情報利用者との情報の受渡しのための共通フォーマット。公共交通機関の時刻表とその地理的情報に使用される共通形式を定義したもので、停留所、路線、便、時刻表、運賃等の情報を包含している。GTFS-JP は、共通フォーマットをベースに、日本向けに拡充を行ったフォーマットであり、GTFS-RT は、GTFS-JP に遅延などのリアルタイムな運行情報を付加したものである。

### ●シームレス

英語で「継ぎ目のない」という意味。公共交通分野では、複数の公共交通サービスを乗り換える抵抗をできるだけ減らし、あたかも一つのサービスかのように利用できる技術や状態を目指すことを言う。

### ●自家用有償旅客運送

バス・タクシー事業が成り立たない場合であって、地域における輸送手段の確保が必要な場合に、必要な安全上の措置をとった上で、市町村や NPO 法人等が、自家用車を用いて提供する運送サービス。旅客から収受する対価は実費の範囲内となる。



### ●準都市機能誘導区域

山形市立地適正化計画において、副次拠点(馬見ヶ崎・嶋地区、山大医学部周辺地区、吉原地区)について、都市機能誘導区域に位置付けるには至らないが、今後高齢化の進展とともに増加が見込まれる交通弱者の生活を支える拠点とするために公共交通レベルの向上が必要になることをふまえて、法定外の都市機能誘導区域として位置付けたもの。(山形市立地適正化計画案より)

### ●SUKSK(山形市健康ポイント事業 SUKSK(スクスク))

市民の健康づくりを目的とした事業。専用のスマホアプリ又は歩数計を活用し、毎日の歩数や、健康づくりに関する事業への参加、健康診査・がん検診等の受診によりポイントが付与される。獲得したポイントは、記念品の抽選に利用できる。

### ●生活支援コーディネーター

高齢者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、地域の困りごとや既に取り組みされている助け合いの見える化、人材を把握し、支援体制を構築することを目的に配置された者。令和7年度現在、山形市では17名の生活支援コーディネーターを配置している。

た

### ●代表交通手段

1 トリップの中で使用した複数の交通手段の中で、予め設定した優先度が最も高い交通手段を「代表交通手段」として設定している。なお、優先度は、鉄道、バス、自動車、二輪車、徒歩の順である。

### ●脱炭素社会

政府による「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」において掲げられたビジョン。今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡(世界全体でのカーボンニュートラル)を達成すること。

### ●DX(デジタル・トランスフォーメーション)

組織が取り巻く環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもとに製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、組織文化・風土を変革し競争上の優位性を確立すること。

### ●デジタルサイネージ(電子看板)

屋外・店頭・公共空間・交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディア。(一般社団法人サイネージコンソーシアム HP より)



●デマンド交通(オンデマンド交通・デマンド型交通・デマンドタクシー)

予約に応じて乗合で旅客を輸送する、路線バスとタクシーの中間のような交通サービス。あらかじめ決まった時間帯に決まった停留所を回る運行方式(定時定路線型)に比べて、需要に応じた柔軟な運行が可能。予約に対して車両を配車するシステムにAI(人工知能)を活用したデマンド交通は、特にAI オンデマンド交通と呼ばれる。

●ドア・ツー・ドア

出発地から目的地へ直接アクセスできること。公共交通においては、タクシーなど、自宅から目的地まで直接移動できるような移動手段をいう。

●トランジットモール

商業地等において、自動車の通行を制限し、歩行空間(モール)と公共交通(トランジット)だけを通行させる空間を創出し、歩行者の安全性の向上、商業地の魅力向上などを図るもの。

●トリップ

パーソントリップ調査では、移動の単位を表す単語として、「トリップ」という単語を用いており、人がある目的(例えば、通勤や買物など)を持って、ある地点からある地点へ移動する単位を指している。なお、途中で交通手段を変えても、目的地に到着するまでを1トリップと数える。

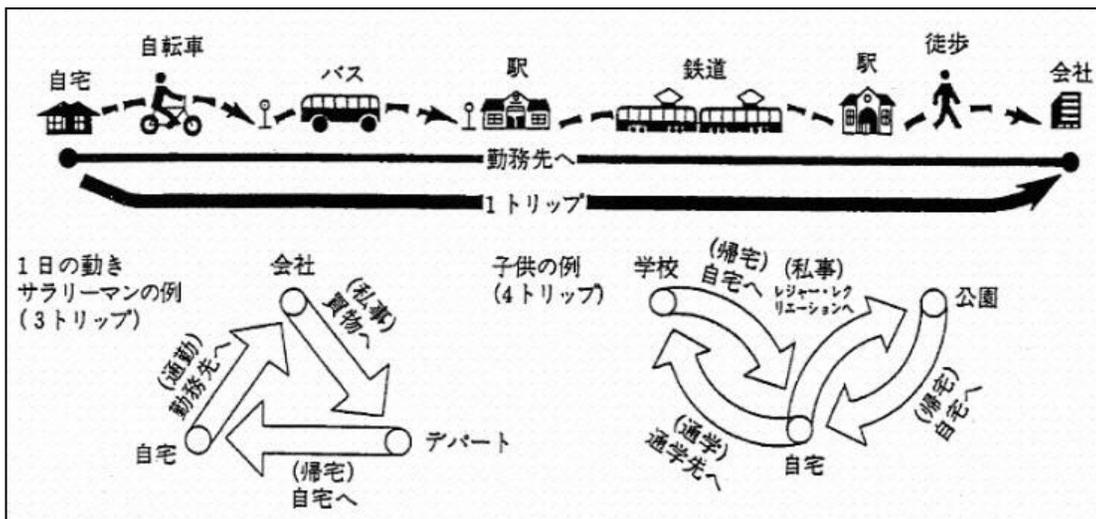
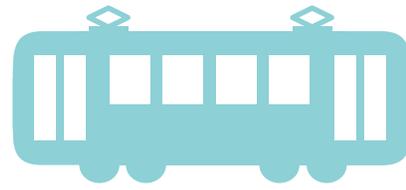


図 トリップのイメージ

な

●二次交通

複数の交通機関を利用する場合の、2 つ目に利用する交通機関のこと。拠点となる空港や鉄道の駅などから、観光地や学校までの交通をいう場合が多い。



### ●日本一の観光案内所

地方創生に向けた取組の更なる強化を図るため、「山形市発展計画 2025」(令和 2 年(2020 年)3 月策定)に基づき、山形市を訪れる方の目的や希望に合った楽しみ方を提案できるような案内サービスを提供する施設として検討を進めているもの。令和 6 年(2024 年)11 月には、素案をもとに「日本一の観光案内所」基本構想を策定している。

### ●乗合タクシー

ワゴン車やセダンなど、比較的小さい車両を使用して、不特定多数の人が「乗り合っ」て運行されるもの。あらかじめルート・ダイヤを設定して、路線バスと同じような形で運行するものから、ルートもダイヤも設定せずに予約に応じてドア・ツー・ドアで運行するものまで、さまざまな形がある。なお、予約に応じて運行するものを一般に「デマンド交通」と呼ぶ。

は

### ●パークアンドライド

公共交通の利用を促進するため、自家用車で鉄道・バス等の近隣の駐車場まで行き、公共交通機関へ乗り換える手法。

### ●バスターミナル

乗合バスの旅客の乗降のため、乗合バス車両を同時に 2 両以上停留させることを目的とした施設で、道路の路面や駅前広場など一般交通の用に供する場所以外の場所に同停留施設を持つものをいう。(国土交通省 HP「バスターミナルについて」より)

### ●バスベイ

歩道に切り込みを入れてバスの停車帯を設けるものであり、乗降の利便性を図るとともに、後続車の追い越しを容易にさせることができるという特徴がある。(国土交通省道路の移動円滑化ガイドラインより)

### ●パターンダイヤ

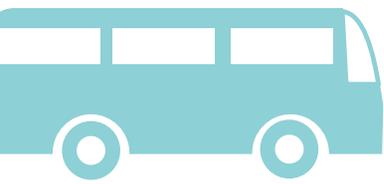
鉄道やバスの運行ダイヤを、一定時間の間隔(毎時〇分発など)で固定すること。

### ●PDCA サイクル

Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(対策)のプロセスを循環させることで、連続的に評価を行うことを目指した仕組み。

### ●福祉有償運送

NPO 法人等が要介護者や身体障がいのある方等の会員に対して、実費の範囲内で、営利とは認められない範囲の対価により、乗車定員 11 人未満の自動車を使用して行うもの。原則としてドア・ツー・ドアの個別輸送を行う。



●福祉輸送

高齢者、障がいのある方など手助けが必要な利用者に対する外出支援サービスの総称。

●平均乗車密度

1便あたりのバスに乗った乗客数を、区間全体の距離で平均した値のこと。

ま

●MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス:Mobility as a Service)

地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。(国土交通省「日本版 MaaS の推進」より)

●モビリティデータ

交通手段の運行ダイヤや運賃、利用実績など、交通機関に関するデータのこと。

●モビリティマネジメント(MM)

1人1人のモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向(自動車の多用から公共交通等を適切に利用する等)に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策。(国交省 HP より)

や

●山形広域都市圏

「山形広域都市圏パーソントリップ調査」の調査対象として、山形市を中心に一体的に形成されている通勤通学圏(生活圏)であることと、都市計画として一体となっている圏域(山形広域都市計画区域)であることを考慮して選ばれた3市2町の範囲。山形市、天童市、上山市、山辺町、中山町が含まれる。

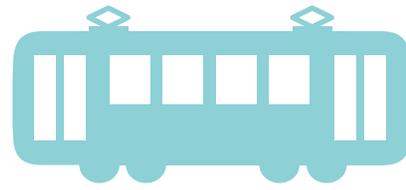
●山形広域都市圏パーソントリップ調査

平成29年(2017年)10月から11月にかけて山形市、天童市、上山市、山辺町、中山町を対象に実施した調査。

「どのような人が」「いつ」「どこからどこへ」「なんの目的で」「どのような交通手段で」移動しているかを調べるアンケート調査である。(山形広域都市圏パーソントリップ調査 HP より)

●山形市基本構想

平成18年(2006年)に、将来にわたり市民が共有できるまちづくりの理念を構想として定めたもの。



### ●ヤマコウチェリカ

山交バス株式会社が発行する交通系 IC カード。山交バス株式会社、庄内交通株式会社、山交ハイヤー株式会社のバス・タクシー、山形市、米沢市、上山市の対象バス路線の乗車券や定期券、各種ポイント付与などの地域独自サービスのほか、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)が提供する Suica エリア及び Suica と相互利用を行うエリアで利用可能な乗車券や電子マネー等の Suica サービスが 1 枚で利用できる。

### ●ユニバーサルデザインタクシー

車いす使用者に限らず、足腰の弱い高齢者、妊娠中の女性、ベビーカー使用者なども含め、みんなが使いやすい新しいタクシー。福祉限定による利用に限らず、街中で呼び止めて誰もが利用できる。

ら

### ●ライドシェア

現在の日本のライドシェアは、以下の 2 つが存在する。(参考資料 P.79 のコラムも参照)

- ・ 公共ライドシェア:バス事業やタクシー事業によって輸送手段を確保することが困難な場合、市町村や NPO 法人などが、自家用車を活用して提供する有償の旅客運送のこと。「自家用有償旅客運送」も参照。
- ・ 日本版ライドシェア:地域交通の「担い手」「移動の足」不足解消のため、令和 6 年(2024 年)3 月、タクシー事業者の管理の下で、自家用車・一般ドライバーを活用した運送サービスの提供を可能とする日本版ライドシェアが創設された。タクシー配車アプリデータ等を活用して、タクシーが不足する地域・時期・時間帯を特定し、地域の自家用車・一般ドライバーを活用して不足分を供給する。(国土交通省「交通空白」解消本部より)

### ●らくのる(やまがた MaaS「らくのる」)

山形市が展開する MaaS のサービス。商業施設等と連携し、公共交通の利用とセットになった、お得チケットを企画・販売することで、公共交通の利用促進と、域内消費の活性化を図っている。

### ●利便増進実施計画(地域公共交通利便増進実施計画)

地域公共交通計画に基づいた地域公共交通ネットワークの再編成や、ダイヤ・運賃等の見直しも含めた利用者の利便の増進に資する取組を通じて、公共交通サービスの持続可能な提供の確保を図る事業を実施するための計画のこと。

### ●連携中枢都市圏

人口減少・少子高齢社会へ向かっていく中、地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点として形成するもの。山形連携中枢都市圏は令和 2 年(2020 年)1 月に形成され、令和 3 年(2021 年)2 月現在、山形市を含む近隣の 7 市 7 町で構成されている。





# 山形市地域公共交通計画

令和8年3月

発行者 山形市

編集 企画調整部 公共交通課

〒990-8540 山形市旅籠町 2-3-25

電話 023-641-1212